

平成 31 年度医療事業部第 1 回研修会(報告)

主 催 (公社) 熊本県栄養士会 医療事業部

日 時 平成 31 年 4 月 27 日 (土) 10:00~16:00

会 場 名 公益財団法人 熊本県総合保健センター 大研修室

◇『栄養アセスメントタンパク質の有効な活用法とピットフォール』

講師: 熊本大学大学院生命科学研究部脳神経内科学分野 教授 安東 由喜雄 先生

栄養アセスメントについて、アミロイドーシスを中心に幅広くお話頂きました。「たった1個のアミノ酸が変わっただけの病気」そう記載があり、とても緊張して講義に挑みましたが、講演が始まると先生の巧みな話術で参加者は自然と先生の世界に引き込まれていきました。

認知症へのアプローチにパーソナルソングなるものがあることも初めて知りました。それは、特定の音楽を聞くことで脳に反応が起こるというものでした。そこから先生の展望として「パーソナルスメル」特定のにおいが脳に反応を起こす。私たち管理栄養士の活躍の場が多岐にわたる可能性を感じました。管理栄養士が知識の充実を図ることの重要性を改めて感じる事ができるセミナーでした。

少ない内容の中にメッセージを込める大切さも感じました。「オ・ワ・リ」



◇『医療(診療報酬の方向性)と地域連携～栄養指導事例から～』

講師: 日本栄養士会医療事業部企画運営副委員長 渡邊 啓子 先生



内容は、国が目指す医療と介護の将来像、2018 年診療報酬・介護報酬改定、医療における栄養管理の役割と今後、最後に症例検討でした。

「知識はあるが、実際に使えるか？」が重要である。それはドラえもんを書くことから始まりました。どの程度の方が書けたか不明ですが、頭ではわかっているはずの事が実際にできない事を体験しました。管理栄養士としての知識も同様である可能性がある事を気づかせていただきました。

また、行政の診療施策を踏まえた上で今後の方針や加算の項目が追加されます。現在はフレイルや低栄養がピックアップされているが、今後は人口減少を考慮した施策が出る可能性について先生の展望を紹介されました。今後の管理栄養士のあり方、求められるのは「できる管理栄養士」「社会に役に立つことができる管理栄養士」。そのためにも、私たちの絶え間ない自己研鑽の必要性を強く仰いました。

患者への関わりとして、何が問題かを見極める事の重要性を学びました。認知症のある肥満高齢者への在宅療法支援についてグループワークを行いました。その中で複数の課題を解決する中で必要な知識を学びました。

今回 106 名(内会員外 2 名)の参加がありました。講師の安東先生、渡邊先生ありがとうございました。

<平成 30 年度事業報告・事業決算報告、平成 31 年度事業計画(案)・予算案>

昼食前の時間を用いて、医療事業部の事業報告及び事業計画(案)のお話がありました。会員の皆様のご協力のもと、本会の運営がよりよいものになるよう努力していきます。今後とも宜しくお願い致します。